

○支援物資について

支援物資の呼びかけ・収集・送付にご協力いただき感謝いたします
各教会からの釜石への支援物資の送付は一旦停止して下さいようお願いいたします。
釜石では避難所にほぼ十分物資は行き渡っている事が飯野司祭の報告により確認されています。また、個別の品目について不足している状況に対しては、現在釜石神愛教会・神愛幼児学園にストックされているものでの対応が可能となっています。神愛教会の保管スペースは限られたものですので、引き続き送付いただくと現地での整理に支障をきたします。状況の推移によって必要となった品目が生じた場合には、改めてリストをお送りいたします。

○支援活動用車両が確保されました

釜石での活動用車両として、板原進さん（京都教区・上野聖ヨハネ教会信徒）より提供があり、藤原健久司祭（京都聖マリヤ教会）が、東京の聖公会神学院まで運送下さり、そこから広谷和文司祭（聖公会神学院校長）と永谷亮神学生により、釜石までリレー搬送していただきました。板原兄には、繰り上げ車検をしていただき長期間の車両の活用を可能として下さいました。感謝

○ボランティアの登録状況

ボランティアの登録を開始しましたが、現在の所、11名の方々の登録をいただいています。今後、現地に行くに際し、時期や期間、現地での働きの内容やそのための準備などを、随時登録された方々にお知らせいたします。ボランティア登録カードは、各教会に配信されています。また、教区のホームページからダウンロードする事もできます。支援活動が、長期となる事を予想していますので、4・5月に限らず可能な時期をお登録下さい。

○ボランティア第一陣として2名を派遣

4月16日（土）より釜石に、岩崎良平さん（稚内聖公会）と、雨宮信喜さん（ファミリーサポート聖十字広場・岩見沢聖十字教会）が、派遣されます。岩崎兄は、約3週間の予定で飯野司祭と共に働かれる予定。雨宮兄は、数日間支援活動に携わられながらファミリーサポートの視点で今後の働きの可能性について検討していただきます。

○支援室の態勢を強化

教区の震災室は、教区事務所スタッフの多大な協力をいただきながら現在まで働きを継続して参りましたが、今後ボランティアスタッフの協力による働きへと移行していきたいと考えています。すでに、工藤マナさん、表 瑞木さん（共に札幌キリスト教会信徒）が、その働きに加わって下さっています。定例の事務局会を、毎週火曜日午後～（教区事務所）開きますので、関心のある方は、是非のぞいてみて下さい。

○飯野司祭、釜石での働き1週間

飯野司祭が、4月7日に釜石に入られて1週間が経ちました。到着当日夜は震度6弱の余震を経験され、翌日から、同市内のカトリック釜石教会・日本基督教団釜石新生教会・市内の避難所などを巡られ、支援活動の様子や支援物資の状況などの把握に努められました。比較的小さな避難所では不足物資もある事を確認、神愛幼児学園に集積されている支援物資から、必要とされるものを自動車で各避難所に届ける働きを、なさっておられます。これら働きは、神愛幼児学園の橋

理事長・松下兄（共に釜石神愛教会信徒）のご案内やご協力によって可能となっています。

また、神愛幼児学園（保育所）での幼児礼拝での聖話などの奉仕に加え、園児と自由遊びを共にされ、園児保護者や保育スタッフとの交わりを通して、被災地における神様の愛と慰めを伝え分かち合うお働き（チャプレンとしての働き）を、されておられます。

【以下は、先生が毎日支援室に報告されている通信から引用です】

「釜石市（殊に沿岸部）が受けた打撃と、神愛教会の一室での私の生活とを混同しないでほしいと思います。市民の内外両面の傷は深く、1, 5キロメートル先は悲惨な状況であり、その復旧にも大変な時間がかかるでしょうし、瓦礫片付け作業も大変な事です。でも、私のここでの生活は、建物も被害はほとんど無く、電気も水道もガスも来ていますので、ごく普通の生活です。「大変な所に入って行った飯野さん」という印象があるようですが、絶対にそんな事はありません。この私がしている事は、釜石神愛教会の方々・釜石神愛幼児学園の園児・保護者・職員と共にいる、という事だけです。少しでも、安心感を抱いていただければなあ、というところです。（4/13）

「柳谷牧師（教団釜石新生教会）の言葉で印象的な表現があったので、記しておきます。『この教会の使命は、あなたが考えているより大きく、今やらなければならない事は、あなたが考えているより小さい。』私は、この言葉を、現在の北海道教区や、この私自身に置き換えて読んでいます。」（4/13）

「園児との自由あそびをとっても重要に受け止めています。手をつなぐ事を求めたり、何度も挨拶をしたり、見つめるとニコっとしたり、部屋の中から私に「先生、イエス様」と呼んだりしている姿に、安心感を求めている事を感じます。昨日の幼児礼拝の私の短い聖話（半分以上は歌でしたが）を、真剣な顔で聴いて下さる保育士の方々の姿が印象的でした。ボランティアの方々がこちらに来てくださるようですが、どのような形でご奉仕出来るか、思案中です。主ご自身が、かじ取りをしてくださいますように。」（4/14）

「今後の展開について検討いたしました。仮設住宅が出来ますとまた違う展開が起こると思われませんが、今までしていたような意味での支援物資提供（外回り）は一段落着きましたので、これからは、今までとは違った面が求められると思います。」（4/15）

「～ ここは被災地です。悲しみと余震と不安と混乱の中にあります。ですから、何が起きているのか分からない人がボランティアをするのは、かなり困難だと思われます。ボランティアというと、過酷な働き、目に留まる働きを連想するかも知れませんが（勿論それは貴い働きですが）、「小さな働き」に献身する魂こそが求められています。被災地は何が起こるか分からない場所ですので、柔軟な心が必要です。昨日は目立つ働きで今日は一日中誰の目にも止まらない所での働きであるという事もあり、現場に行ってみたら全く予想していなかった働きであった、というような事も受け入れられる心でなければだめです。要するに、自分の情熱によって動いているのか、被災された方々の心の痛みから動いているのか、という事です～」（4/15）

【震災支援室からのお願い】

◎ ニュース定期便は、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。

◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】 電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377
Eメールアドレス：saigai@nsskk-hokkaido.jp